

11 印象採得

パーシャルデンチャーの印象採得の特殊性は、被圧変位量の大きく異なる残存歯と顎堤粘膜を一塊として同時に採得することにある。すなわち、支台歯となる残存歯にはクラウンブリッジと同様の高い印象精度が要求され、粘膜支持型義歯の顎堤粘膜に対しては機能印象が必要であり、義歯床縁部はコンプリートデンチャーの印象採得に準じた筋圧形成(辺縁形成)もしなければならぬ。そのため研究用模型上で十分検討したうえで義歯の仮設計を行い、欠損の様式や部位により最終印象として最適な印象方法を選択する。

筋圧形成 Muscle trimming, 辺縁形成 Border molding 機能時の頬・口唇・舌の動きに調和した義歯床縁形態を得るために、それらの動的な状態を、モデリングコンパウンドなどを用いて記録する操作。

A 印象採得の手順

1 概形印象

既製トレーとアルジネート印象材を用いて研究用模型を製作するための概形印象を採得する。

概形印象 Preliminary impression

1) 既製トレーの選択

既製トレーには数種類のサイズがあり、そのなかから個々の患者の歯列にできるだけ合致したトレーを選択する。金属製とプラスチック製があり、アルジネート印象材用には小孔や網目などの保持部が付与されている(図11-1)。この既製トレーの適合をよくするため、トレーを屈曲したり、欠損部顎堤とトレーとのスペースにコンパウンドやシリコンパテなどを補填したり、辺縁

図11-1 既製トレー



金属製(有孔型、網目型など)とプラスチック製(ディスポーザブル)があり、数種類のサイズがある。そのなかから個々の患者の歯列にできるだけ合致したトレーを選択する。

の不足部分にユーティリティーワックスを付与するなどを行うこともある。

2) 概形印象の採得

アルジネート印象材を既製トレーに盛り付け、口腔内に挿入後、所定の位置に圧接、保持し、印象材が完全に硬化してから撤去する。必要な解剖学的ランドマークがすべて含まれているかどうかを確認する。少数歯残存症例やオーバーデンチャーでは、概形印象の精度をさらに高めるために、残存歯部の印象を部分的に削除してアルジネートの積層印象を行うこともある(図11-2)。

図11-2 概形印象



3) 研究用模型の製作

概形印象より研究用模型を製作する。口腔内では十分に診査できなかった残存歯の植立方向やアンダーカット、骨隆起の大きさ、顎堤形態などを観察する。研究用模型では、義歯の仮設計と最終印象用の個人トレーの製作を行う。

2 個人トレーの製作

個人トレーはコンプリートデンチャーやクラウンブリッジでも用いられ、対象となる口腔内の状況を正確に記録することをおもな目的とする。一方、パーシャルデンチャーの個人トレーは、とくに粘膜が義歯の支持に関与する歯根膜粘膜支持型、粘膜支持型の義歯では、粘膜部分は咬合圧が加わって被圧変位した形態を記録することを目的とする点で前者とは違いがある。

この場合の個人トレーは、粘膜部分は印象材を通じて加圧するため、その部のトレーの内面は顎堤粘膜面に密着させ、辺縁部は印象材が流出して減圧するのを防ぐため、頬粘膜との境界でしっかり封鎖する。これは筋圧形成という作業によって行われるが、顎堤粘膜から頬粘膜への移行部を印象面にはっきり現わすようにするためでもある。これによって義歯の床縁の位置が決められるのである。

つまり、個人トレーの製作では、その内面は義歯の支持に想定される顎堤粘膜部分とは隙間を開けずに密着させ、辺縁封鎖や筋圧形成が必要な辺縁部には熱可塑性のコンパウンドを付加する。残存歯については、加圧の必要はなく正確に形が記録されることが大切なので、印象材の十分な厚みが見られるようにパラフィンワックスで覆い、トレーとの間にスペースをつくる。なお、トレーを口腔内で定位置に保つために、支台歯にならない残存歯の切縁や咬頭に当たるところに